

やまがた社会貢献 INTRODUCTION 基金を活用した助成事業のご紹介

■協働助成事業(テーマ希望型)

富士通株式会社山形支店からの寄付による事業 《富士通 快適・安心の社会づくり支援事業》

1 「発達障がいってなに!？」

障がいによる弱さ・つまづきやすさ
認め合おう、分かり合おう!

(1) 事業実施団体 おしゃべりサロン「michikusa」(新庄市)

(2) 事業内容

「発達障がい」は見えにくい障がいであるため、周囲から理解が得られず、必要な支援体制づくりが、まだまだ進んでいません。

そこで、昨年11月23日に新庄市の「ゆめりあ」を会場に、発達障がいに関する理解の促進を図るため、講演会とシンポジウムを開催しました。

実施団体より

越後 美和さん

講演会には、見込みを超える来場者を迎えることができ、発達障がいについて、もっと知りたい!という関心のある方々が大勢いらっしゃることを知ることができました。今後、子どもの支援について、障がいの理解をもっと深め、交流や話し合いのできる居場所づくりの機会を増やし、地域における発達障がいの理解促進につなげていかなければいけないとより一層感じました。

この事業の開催により、今後の活動の良ききっかけづくりになったと思います。



2 ニート・ひきこもりの若者と地域を結ぶ植栽活動

(1) 事業実施団体 山形県新規就農者ネットワーク(河北町)

(2) 事業内容

ニート・ひきこもりの若者には、自分たちが社会に必要とされ、地域に貢献しているという自覚を持つことができる場創りが求められています。

この事業は、農作業の技術習得をとおして、ニート等の若者の自立を促すとともに、交流会等を開催し、若者と地域とを結ぶことを目的に実施しています。

昨年10月25日には、ニート等の若者と地域住民が一緒になって、河北町内の農道の路肩に芝桜の植栽を行いました。



メッセージ

富士通株式会社
山形支店長 武井 深さん

当社は、快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し、豊かで夢のある未来社会を世界中の人々に提供することを企業理念としています。

昨年、山形支店開設30周年を記念して、やまがた社会貢献基金に寄付を行いました。福祉や健康の面から、快適で安心できる社会づくりを推進する活動を支援しています。



■協働助成事業(テーマ希望型)

株式会社ヤマザワからの寄付による事業 《健康元気な環境保全活動支援事業》

1 環境出前教室(出張マイ箸作り)

(1) 事業実施団体 やまがたマイ箸クラブ(山形市)

(2) 事業内容

使い捨て生活を見直し、資源の大切さを啓蒙推進するため、小学校行事や地域イベントとタイアップして、環境出前教室(出張マイ箸作り)を開催しています。環境についての話や食育におけるお箸のマナーについても学ぶ内容になっています。

実施団体より

松田 早苗さん

参加した子どもたちからは、「今の地球の状態がわかった」、「外食の時にもマイ箸を持って行く!」、「正しいお箸の使い方もわかって良かった」などの声がかれました。かけがえのない自然環境を、次世代に「ハシ」わたす活動をこれからも継続していきます。

3 減量すすむくんカルタを子どもの手に

(1) 事業実施団体 NPO法人まちづくり山形(山形市)

(2) 事業内容

ごみ減量の取組みのうち、子どもたちを対象にした取組みは少ない状況にあります。子どもたちに環境保全の大切さを伝えていくために、「ごみ減量すすむくん」カルタを関係団体との協働で作製し、保育園などに配布しました。また、希望者にも配布しています。

実施団体より

村中 秀郎さん

多くの子どもたちから「楽しい」といった反響があり、これからは、かるた遊びを広めることと、遊びの中で学ぶことができるような工夫を考えています。



2 小水力発電を利用した環境教育事業

(1) 事業実施団体 松原地区保全協議会(飯豊町)

(2) 事業内容

道の駅いで・めざみの里に隣接する「白川公園」に設置している水車を使って小水力発電を行い、公園内をライトアップしています。環境にやさしい地域づくり活動として、他の地域にも発信します。



メッセージ

株式会社ヤマザワ
代表取締役社長 板垣 宮雄さん

当社では地球温暖化につながる二酸化炭素(CO₂)排出抑制に向けた活動の一環としてレジ袋の使用を減らす「マイバッグ持参運動」を推進しています。

このたび、当社が販売したレジ袋の収益金を寄付いたしました。美しく豊かな山形の自然環境を保全し、未来に引き継いで行くための環境保全活動を応援します。



託された“想い”をカタチにするために

「やまがた社会貢献基金」では、支援したい団体を希望できる「団体支援寄付」と、支援したい活動の分野や地域を希望することができる「テーマ希望寄付」の二つの制度を設けています。これらの寄付には「地域社会のために何か役に立ちたい」という寄付者の想いや願いが託されていますから、助成事業の実施にあたって寄付者の意向が最大限尊重され、実現されるよう、大切にNPO団体へ“つなぐ”ことに努めています。

○ご希望を十分にお聞きしてテーマを設定します

たとえば、テーマ希望寄付をいただいたときは、次のように事業を進めていきます。

まず、寄付者の意向を十分にお聞きしながら事業の名称やテーマを決定していきます。企業理念なども踏まえ、どんなことが問題なのか、その解決のためにどんな活動を支援したいのかなど、考えや希望をじっくりお伺いします。また、その問題に関連する県の施策や取組みの状況を調査し、関係課の担当者との意見交換をしながら「募集要項」としてまとめ、寄付者のご理解をいただいています。

○テーマを共有し、一緒に考えます

次に、募集開始時にNPO団体への募集説明会を開催しています。テーマの設定趣旨はもちろん、県庁の担当課からテーマに関連した県政課題などについて説明し、理解を深めていただきます。さらに、必要なときは個別に相談に応じたり、意見を交換したりして、アイデアを具体的なカタチに創りあげてお手伝いをさせていただいています。



無理なく続けられる「選んで買う」という社会貢献

「コースブランド (causebrand) (商品)」をご存知でしょうか。私たちが商品やサービスを購入すれば、売り上げの一部を企業が社会貢献活動へ寄付するという商品です。「社会貢献活動をする時間はない」、「寄付するほど余裕はない」、そんな方でも必要なものをご購入するときにコースブランドを選んで買うだけで、立派な社会貢献ができるのです。企業にとっても社会貢献への姿勢を示すことで消費者に選ばれるとすれば、収益と社会的責任の両立が図られることとなります。

NPOによる社会貢献活動には、時間と資金が必要です。県民一人ひとりが無理なく続けられる寄付が安定的な基盤をつくり、地域課題の解決につながります。買う人、売る人が増え、「三方よし」の社会貢献の輪が広がっていくことを期待しています。

やまがた社会貢献基金では、一定の条件のもとに寄付つき商品の販売で協力いただける企業の募集を予定しています。詳しくは県ホームページでお知らせします。

【県内の事例】

- ・アサヒビール：山形県で販売された「スーパードライ」1本につき1円を寄付
- ・ホテルメトロポリタン：「元気な山形応援プラン」の利用料の5%を寄付
- ・東北ペプシコーラ販売：一定金額をモンテディオの応援や緑化活動などに寄付する自動販売機の設置

